

映画の教室 2017 色彩の探求

2017年 10月11日(水)、25日(水) 11月8日(水)、22日(水) 12月6日(水)
全5回、隔週水曜、7:20pm 開始 (研究員による約15分の解説付き)

解説付きで映画の色の魅力と多様性を体験!

5回のシリーズで映画を学ぶ!

映画芸術や映画保存を学ぶ上で重要な作品を、フィルムセンターの所蔵作品の中から上映するプログラム「映画の教室」が、2017年度より、**テーマに沿った各5回シリーズ・研究員の解説付きにリニューアル**しました。大好評を博した「映画の教室 2017 素材から観る日本アニメーション」に続き、2017年10月からのシリーズは「映画の教室 2017 色彩の探求」と題して、フィルムの“色”に迫ります。シリーズを通して観ることで、より一層映画や作品への理解を深めることができます。

映画の色は、理想的な色を求めた作り手たちの創意工夫と、それを支えた技術の発展により育まれてきました。白黒フィルムの時代には、フィルムを鮮やかに染める染色や、フィルムに含まれる銀を異なる物質に変化させ発色させる調色、コマに色付けを施す彩色などの方法が普及しました。

カラーフィルムが誕生してから、さまざまな試みが行われ、いくつものカラーシステムが生まれました。今回の「映画の教室」では、**アニメーションや記録映画におけるさまざまな試み、国産カラー映画の挑戦、本格的カラー映画時代の意欲的な表現の追求、カラーフィルム以前の色彩と**、5回にわたって紹介します。**映画の基礎を学びたい方々**のご参加をお待ちしています。

研究員による解説付きで映画の色の魅力と多様性を体験できる本特集を、ぜひともご周知いただきますようお願い申し上げます。

また、5回のシリーズで映画を学ぶ「映画の教室」では、できるだけ5回通してご参加いただきたいの思いから、**混雑時でも各回の開始時間7:10pmまでお席を確保できる会員証**を販売します。当日駆け込んでも確実に入場できる本会員証をぜひご利用ください。



映画の教室
2017

★「映画の教室」会員証 = 300円 [限定50枚] ※観覧券は各回別途必要です

【特典①】 混雑時でも7:10pmまでお席を確保します。(自由席・入場は入場整理券の番号順・開映後の入場不可)

【特典②】 購入時に7階展示「生誕100年 ジャン＝ピエール・メルヴィル、暗黒映画の美」の入場券1枚、全5回参加完了時には本年度の当館主催上映の入場引換券を1枚謹呈します。

購入方法など、詳しくはこちら→<http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/filmclassof2017-color/#section1-2>

■開催概要

企画名：映画の教室 2017 サブタイトル：色彩の探求

日時：2017年10月11日(水) 25日(水) 11月8日(水) 22日(水) 12月6日(水) 各日7:20pm 開始 [7:00pm 発券・開場]

会場：東京国立近代美術館フィルムセンター小ホール (地下1階)

料金：一般520円/高校・大学生・シニア310円/小・中学生100円/障害者(付添者は原則1名まで)、キャンパスメンバーズは無料

掲載用のお問い合わせ先：ハローダイヤル03-5777-8600

本企画ウェブサイト：<http://www.momat.go.jp/fc/exhibition/filmclassof2017-color/>

Film Class of 2017

■プログラム(全5回) *全作品フィルム上映 *各回、研究員による約15分の解説付き

第1回 10月11日(水) さまざまなカラーシステム

1950年代はカラーフィルムが次々と開発され、実用化された時代だった。コニカラーで撮影された『かわいい魚屋さん』、イーストマンカラーを用いたアニメーション『ふくすけ』、日本で初めてアグファカラーを使用した記録映画の『ダービーを目指して』、フジカラーで撮影されたアニメーション『黒いきごとと白いきごと』と、さまざまなカラーシステムをアニメーションや記録映画、劇映画を交えて紹介する。

上映作品 (4作品、計約50分)

かわいい魚屋さん (3分・35mm・カラー) 1953 (監) 新村土行
ふくすけ (18分・35mm・カラー) 1957 (監) 横山隆一

ダービーを目指して (9分・35mm・カラー) 1956 (撮) 山口シネマ
黒いきごとと白いきごと (16分・35mm・カラー) 1956 (監) 藪下泰司

第2回 10月25日(水) フジカラー

富士写真フィルム(現 富士フィルム)が開発したカラーフィルムで撮影した『カルメン故郷に帰る』は、国産総天然色映画第一弾として発表された。十分な光量が必要だったため、ほぼ全篇屋外ロケが行われた。自然の美しい色を生かした中でふたりの女性の色彩が鮮やかに映えるよう、衣装やメイクをカラー映画用の色づかいにするなど、さまざまな工夫を試みている。

上映作品 **カルメン故郷に帰る** (86分・35mm・カラー) 1951 (監) 木下恵介

カルメン故郷に帰る



第3回 11月8日(水) イーストマンカラー①

アメリカのイーストマン・コダック社は、1950年に映画用の35mmカラーフィルムを発表した。名カメラマン宮川一夫は、錦絵や浮世絵などの色を勉強し、木版で摺ったような絵を目指したという。襦袢の真紅など、濁りのない色が美しい。宮川は本作で日本映画テレビ技術協会による日本映画技術賞の色彩撮影賞を受賞。

上映作品 **刺青(いれずみ)** (86分・35mm・カラー) 1966 (監) 増村保造

刺青



第4回 11月22日(水) イーストマンカラー②

1953年に東洋現像所(現 IMAGICA)はイーストマンカラーの現像処理を開始し、大映が“大映カラー”と呼んで特に意欲的に採用した。王朝悲劇の美しい絵巻のような本作は、溝口健二にとつての初めてのカラー映画にあたり、抑えた中でも暗部の色が良く出ているその色彩は、公開当時に絶賛された。

上映作品 **楊貴妃** (91分・35mm・カラー・英語字幕付) 1955 (監) 溝口健二

楊貴妃



第5回 12月6日(水) 白黒フィルム時代の色彩

調色・染調色を用いた時代劇『元録快挙 大忠臣蔵』と『新版 大岡政談 第二篇』、染色のアニメーション作品『鼠の留守番』と『春の唄』、D・W・グリフィスの『女の叫び』など、これらのシーンや作品に合わせた彩りと、トリック映画「パテ魔法映画三種」のコマに施す彩色など、白黒フィルムの時代のさまざまな色彩を紹介する。

上映作品 (6作品 計約50分)

元録快挙 大忠臣蔵[玩具フィルム][白黒ボツ調色版] (1分・16fps・35mm・調色・無声) 1930 (監) 池田富保
新版 大岡政談 第二篇[玩具フィルム][白黒ボツ染調色版] (1分・16fps・35mm・染調色・無声) 1928(監)伊藤大輔
鼠の留守番[日活グラフィック] (3分・35mm・染色) 1931 (監) 大石郁雄
春の唄 (3分・16fps・35mm・染色・無声) 1931 (監) 大藤信郎
女の叫び The Lonedale Operator [MoMA 復元版] (17分・16fps・35mm・白黒/一部染色・無声・英語インタータイトル/日本語字幕付) 1911 (監) D・W・グリフィス

パテ魔法映画三種 (14分・18fps・35mm・彩色・無声・フランス語/英語版) 1908-1909 (監) セグンド・デ・チョーモン



春の唄

【本企画に関するお問い合わせ】

東京国立近代美術館フィルムセンター 事業推進室 広報担当

電話：03-3561-0823 FAX：03-3561-0830 E-mail：nfc-pr@momat.go.jp